

公開シンポジウム

# 国土の グランドデザイン2050

## の 意義と課題

2018.8.27 [月] 13:00-17:00

日本学術会議講堂

参加無料・予約不要

主催：日本学術会議地域研究委員会人文・経済地理学分科会  
後援：地理学連携機構、日本地理学会、人文地理学会、経済地理学会

2014年に公表された「国土のグランドデザイン2050」は、対流促進型国土の形成を掲げるなど、国土政策の長期的な方向を提示してきた。その後、地方創生施策が打ち出されるとともに、「第4次産業革命」「Society5.0」など、新たな未来社会像が展望されるなかで、国土政策のあり方を改めて再検討する必要があるように思われる。本シンポジウムではさまざまな角度からこれまでの国土政策の意義と課題を論じたい。

司会：吉田 道代（日本学術会議連携会員、和歌山大学観光学部教授）

13:00-13:10 題旨説明 松原 宏（日本学術会議第一部会員、東京大学大学院総合文化研究科教授）

13:10-13:50 基調講演 大西 隆（日本学術会議前会長、豊橋技術科学大学学長）：国土のグランドデザイン2050の意義と課題

13:50-15:30 報告1 岡橋 秀典（日本学術会議連携会員、奈良大学文学部教授）：森林と国土保全 — 「緑の列島」はサステナブルか

報告2 小田 宏信（日本学術会議連携会員、成蹊大学経済学部教授）：サテライトオフィス誘致を通じた地域活性化 — 「徳島美波モデル」の可能性

報告3 中澤 高志（日本学術会議連携会員、明治大学経営学部教授）：地方圏における公共セクターの雇用と若者

報告4 水内 俊雄（日本学術会議連携会員、大阪市立大学都市研究プラザ教授）：仕事とハウジングをセットにしたセーフティネット構想

報告5 車 相龍（長崎県立大学地域創造学部教授）：韓国における国土政策の行方 — 第5次国土総合計画樹立の主要論点と展望

15:30-15:50 休憩

15:50-16:05 総括コメント 矢田 俊文（北九州市立大学元学長）

16:05-16:50 総合討論

閉会の辞 石川 義孝（日本学術会議第一部会員、帝京大学経済学部教授）

